

平成 29 年度

県内運送事業者の物流実態アンケート

報告書

平成 30 年 5 月

鳥取県商工労働部通商物流課

— 目次 —

御利用に当たって	1
結果の概要	
1 回答事業者の概要	
(1) 鳥取県外の支店の有無について	2
(2) 資本金について	2
(3) 直近1年間の売上高（平成28年4月から平成29年3月まで）について	3
(4) 従業員数（平成29年3月末現在）について	4
(5) トラックの保有台数について	4
(6) 自社保有の倉庫面積について	5
(7) フォークリフトの保有台数について	5
2 輸送の状況	
(1) 年間輸送について	6
(2) 主な輸送品目について	6
(3) 定期的な輸送の方面別輸送について	7
(4) 今後重点を置こうと考えている地域について	7
3 輸送業務、保管業務に関する問題点や課題	
(1) 輸送業務、保管業務の満足度について	8
(2) 輸送業務、保管業務の問題点や課題について	9
(3) 物流効率化を進めるに当たって、希望する支援策等について	10
4 運賃動向	
(1) 平成28年と比較した運賃動向について	11
(2) 運送に係る付帯作業とその作業代金の収受について	11
5 環境問題への取組	
(1) Gマーク、グリーン経営認証の取組状況について	12
(2) 環境問題と物流効率化への取組の位置づけについて	12
6 ドライバー等の人材確保対策についての取組	
(1) ドライバー等の人材確保について	13
(2) ドライバーの確保ができていない場合の運行業務への支障について	13
(3) 人材不足による業務への影響について	14
(4) ドライバー確保の必要な取組について	14
(5) ドライバーの採用方法について	15
(6) 採用されているドライバーの男女比について	15
(7) 女性ドライバーの採用について	16
(8) ドライバーの定着率について	16
7 自由記入欄の傾向	17
調査票	18

御利用に当たって

1 調査概要

本調査は、鳥取県トラック協会会員を対象とし、県内運送事業者の輸送状況や課題、人材確保対策等に関する調査を行ったものである。

(1)調査対象

鳥取県トラック協会会員の企業のうち、一定規模で事業を行う企業

(2)調査期間

平成 29 年 10 月 6 日から平成 29 年 10 月 27 日まで

(3)調査方法

郵送・自計申告の方法により実施

(4)調査内容

ア 県内運送事業者の輸送や業界の現状及び今後の計画

イ 人材確保対策について

ウ 環境問題、職場環境の改善についての計画

エ 自治体・公的機関等に対して希望する支援策

(5)調査の基準となる期間

平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月まで

(6)有効回答率

調査対象数:181 事業所

有効回答数: 51 事業所 有効回答率:28.2%

2 利用上の注意

(1)統計表の数値(割合)は、単位未満を四捨五入しており、内訳(構成比)の合計が 100%にならない場合がある。

(2)複数回答の設問については、内訳(構成比)の合計が 100%を超える場合がある。

(3)各設問において、無回答の場合は有効回答に含めていない。

(4)表や図における選択肢の表記について、一部省略していることがある。

(5)図のうち、積み上げ横棒グラフについて、構成比の数値が 5%未満のものについては表記を省略している。

結果の概要

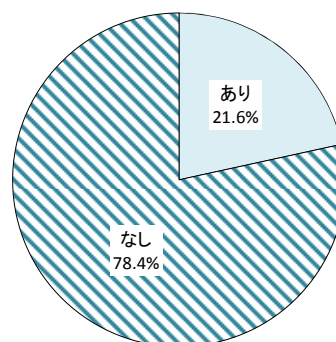
1 回答事業者の概要

(1) 鳥取県外の支店の有無について

鳥取県外の支店の有無について、「あり」が21.6%、「なし」が78.4%となっており、回答事業者の約80%は県内の事業所のみでの運営形態となっている。

	回答数	回答割合
あり	11	21.6%
なし	40	78.4%
有効回答	51	100.0%

鳥取県外の支店の有無



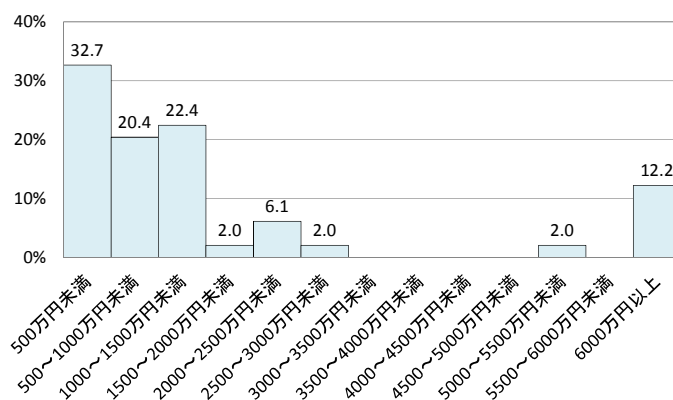
(2) 資本金について

事業者の資本金は、「500万円未満」が32.7%と最も多く、次いで「1000～1500万円未満」(22.4%)、「500～1000万円未満」(20.4%)と多くなっている。

中央値は700万円であり、平均資本金額(294,814.1万円)以下の割合は95.9%となっている。

	回答数	回答割合
500万円未満	16	32.7%
500～1000万円未満	10	20.4%
1000～1500万円未満	11	22.4%
1500～2000万円未満	1	2.0%
2000～2500万円未満	3	6.1%
2500～3000万円未満	1	2.0%
3000～3500万円未満	0	0.0%
3500～4000万円未満	0	0.0%
4000～4500万円未満	0	0.0%
4500～5000万円未満	0	0.0%
5000～5500万円未満	1	2.0%
5500～6000万円未満	0	0.0%
6000万円以上	6	12.2%
有効回答	49	100.0%

資本金



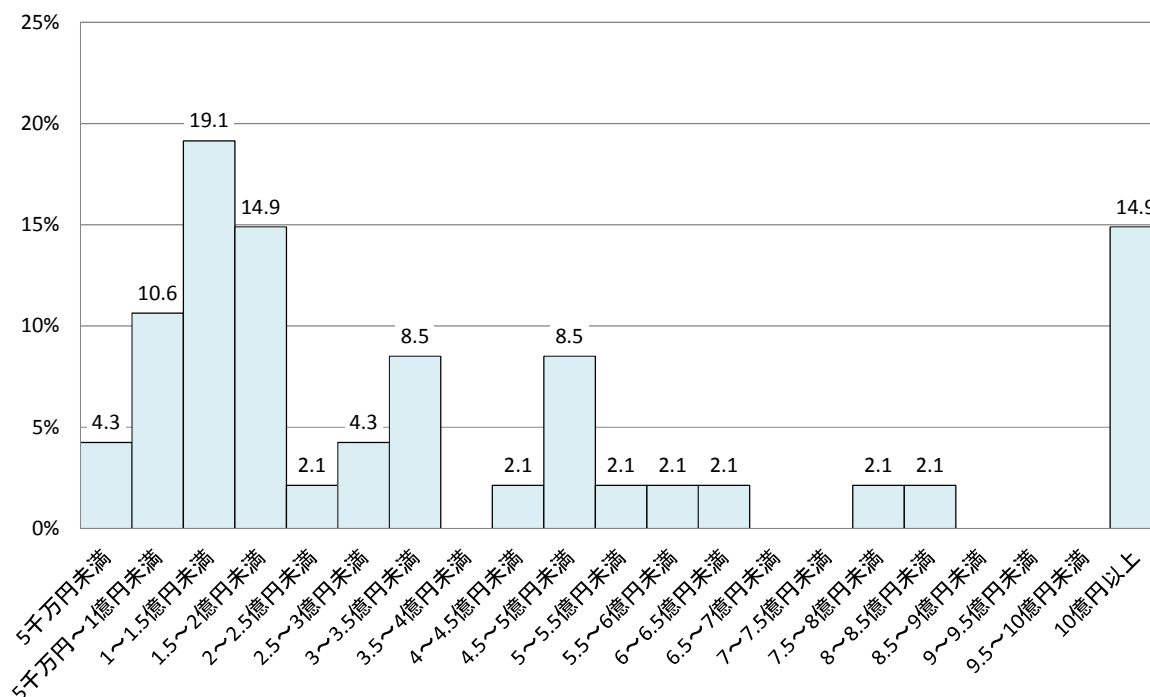
(3) 直近1年間の売上高(平成28年4月から平成29年3月まで)について

直近1年間の売上高は、「1～1.5億円未満」が19.1%と最も多く、次いで「1.5～2億円未満」(14.9%)、「5千万円～1億円未満」(10.6%)と多くなっている。

中央値は20,666万円、平均売上高(76,220.4万円)以下の割合は83.0%となっている。

	回答数	回答割合		回答数	回答割合
5千万円未満	2	4.3%	5.5～6億円未満	1	2.1%
5千万円～1億円未満	5	10.6%	6～6.5億円未満	1	2.1%
1～1.5億円未満	9	19.1%	6.5～7億円未満	0	0.0%
1.5～2億円未満	7	14.9%	7～7.5億円未満	0	0.0%
2～2.5億円未満	1	2.1%	7.5～8億円未満	1	2.1%
2.5～3億円未満	2	4.3%	8～8.5億円未満	1	2.1%
3～3.5億円未満	4	8.5%	8.5～9億円未満	0	0.0%
3.5～4億円未満	0	0.0%	9～9.5億円未満	0	0.0%
4～4.5億円未満	1	2.1%	9.5～10億円未満	0	0.0%
4.5～5億円未満	4	8.5%	10億円以上	7	14.9%
5～5.5億円未満	1	2.1%	有効回答	47	100.0%

売上高(平成28年4月～平成29年3月)

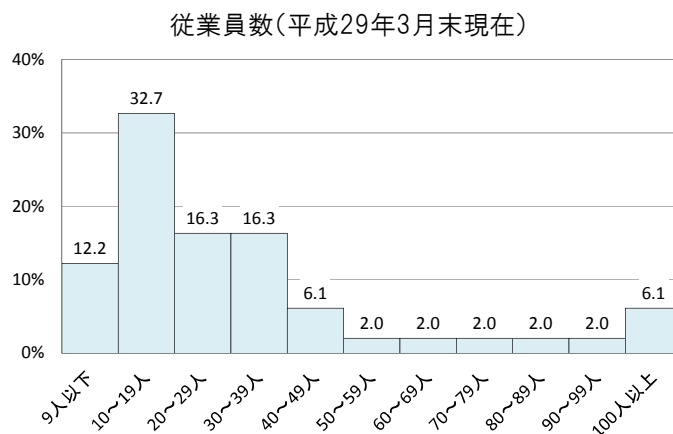


(4) 従業員数(平成 29 年 3 月末現在)について

平成 29 年度末の従業員数は、「10～19 人」が 32.7%と最も多く、次いで「20～29 人」(16.3%)、「30～39 人」(16.3%) と多くなっている。

中央値は 22 人、平均従業員数 (42.6 人) 以下の割合は 79.6%となっている。

	回答数	回答割合
9人以下	6	12.2%
10～19人	16	32.7%
20～29人	8	16.3%
30～39人	8	16.3%
40～49人	3	6.1%
50～59人	1	2.0%
60～69人	1	2.0%
70～79人	1	2.0%
80～89人	1	2.0%
90～99人	1	2.0%
100人以上	3	6.1%
有効回答	49	100.0%

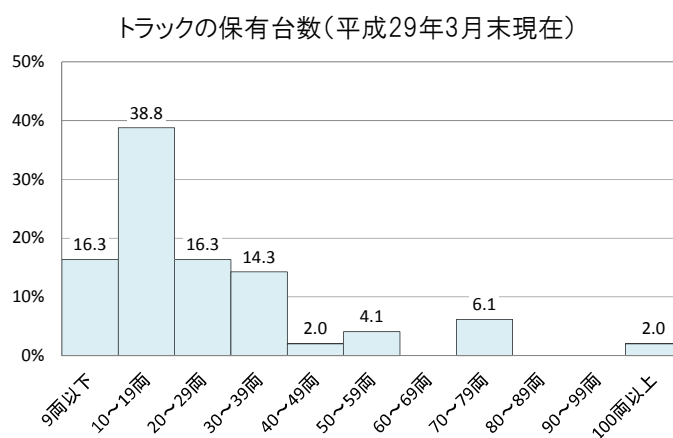


(5) トラックの保有台数について

トラックの保有台数は、「10～19 両」が 38.8%と最も多く、次いで「9 両以下」(16.3%)、「20～29 両」(16.3%) と多くなっている。

中央値は 16 台、トラックの平均保有台数 (30.9 台) 以下の割合は 73.5%となっている。

	回答数	回答割合
9両以下	8	16.3%
10～19両	19	38.8%
20～29両	8	16.3%
30～39両	7	14.3%
40～49両	1	2.0%
50～59両	2	4.1%
60～69両	0	0.0%
70～79両	3	6.1%
80～89両	0	0.0%
90～99両	0	0.0%
100両以上	1	2.0%
有効回答	49	100.0%

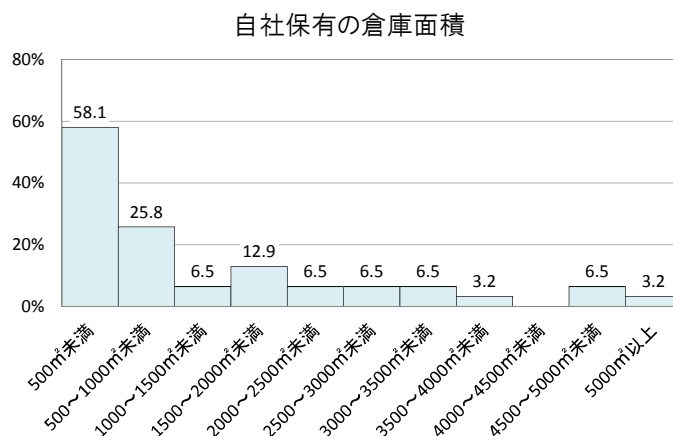


(6) 自社保有の倉庫面積について

自社保有倉庫に関しては、「500㎡未満」が58.1%と最も多く、次いで「500～1000㎡未満」(25.8%)、「1500～2000㎡未満」(12.9%)と多くなっている。

中央値は605.5㎡、自社保有の平均倉庫面積(1249.9㎡)以下の割合は83.9%となっている。

	回答数	回答割合
500㎡未満	18	58.1%
500～1000㎡未満	8	25.8%
1000～1500㎡未満	2	6.5%
1500～2000㎡未満	4	12.9%
2000～2500㎡未満	2	6.5%
2500～3000㎡未満	2	6.5%
3000～3500㎡未満	2	6.5%
3500～4000㎡未満	1	3.2%
4000～4500㎡未満	0	0.0%
4500～5000㎡未満	2	6.5%
5000㎡以上	1	3.2%
有効回答	31	100.0%

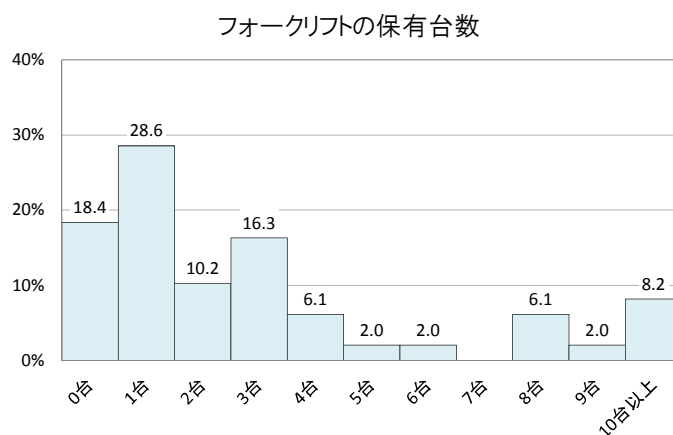


(7) フォークリフトの保有台数について

フォークリフトの保有台数は、「1台」が28.6%と最も多く、次いで「0台」(18.4%)、「3台」(16.3%)と多くなっている。

中央値は2台、フォークリフトの平均保有台数(3.6台)以下の割合は73.5%となっている。

	回答数	回答割合
0台	9	18.4%
1台	14	28.6%
2台	5	10.2%
3台	8	16.3%
4台	3	6.1%
5台	1	2.0%
6台	1	2.0%
7台	0	0.0%
8台	3	6.1%
9台	1	2.0%
10台以上	4	8.2%
有効回答	49	100.0%



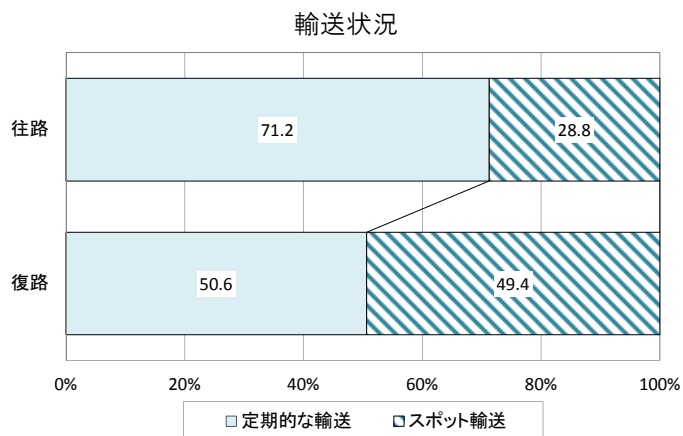
2 輸送の状況

(1) 年間輸送について

直近1年間（平成28年4月から平成29年3月まで）の輸送量は、往路が約151.0万トン、復路が85.8万トンとなっている。

また、輸送に占める定期的な輸送の割合は、往路が71.2%、復路が50.6%となっている。

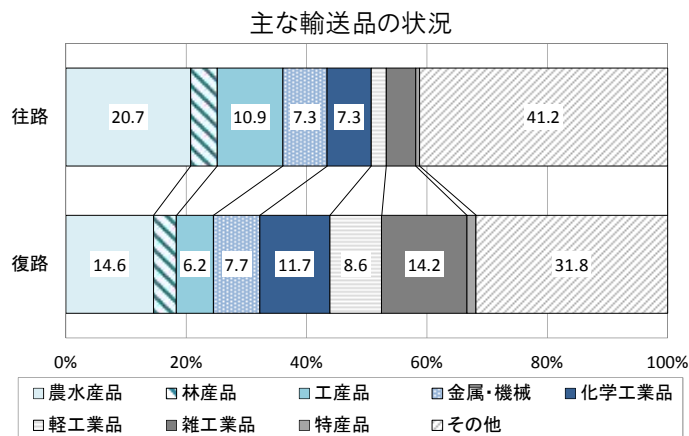
	往路		復路	
	輸送量(t)	輸送割合	輸送量(t)	輸送割合
定期的な輸送	1,076,178	71.2%	434,418	50.6%
スポット輸送	434,264	28.8%	423,774	49.4%
合計	1,510,442	100.0%	858,191	100.0%



(2) 主な輸送品目について

主な輸送品目は、往路では「その他」が41.2%と最も多く、次いで「農水産品」(20.7%)、「工産品」(10.9%)となっている。復路でも「その他」が31.8%と最も多く、次いで「農水産品」(14.6%)、「雑工業品」(14.2%)と多くなっている。

	往路		復路	
	輸送量(t)	輸送割合	輸送量(t)	輸送割合
農水産品	301,808	20.7%	119,807	14.6%
林産品	64,140	4.4%	31,209	3.8%
工産品	159,225	10.9%	50,614	6.2%
金属・機械	106,890	7.3%	63,087	7.7%
化学工業品	106,578	7.3%	95,751	11.7%
軽工業品	36,231	2.5%	70,692	8.6%
雑工業品	71,382	4.9%	116,687	14.2%
特産品	9,264	0.6%	12,388	1.5%
その他	599,597	41.2%	261,442	31.8%
合計	1,455,113	100.0%	821,678	100.0%

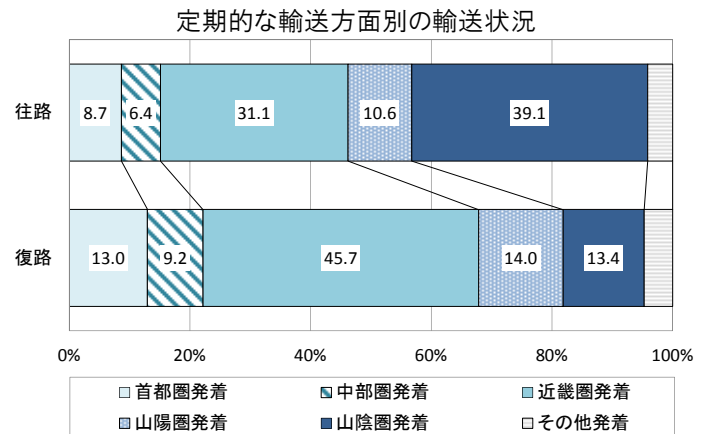


(3) 定期的な輸送の方面別輸送量の状況について

定期的な輸送の方面別輸送状況は、往路では「山陰圏」が39.1%と最も多く、次いで「近畿圏」(31.1%)、「山陽圏」(10.6%)と多くなっている。

復路では「近畿圏」が45.7%と最も多く、次いで「山陽圏」(14.0%)、「山陰圏」(13.4%)と多くなっている。

	往路		復路	
	輸送量(t)	輸送割合	輸送量(t)	輸送割合
首都圏発着	120,787	8.7%	106,613	13.0%
中部圏発着	89,462	6.4%	75,700	9.2%
近畿圏発着	433,368	31.1%	375,506	45.7%
山陽圏発着	146,932	10.6%	114,826	14.0%
山陰圏発着	544,277	39.1%	110,310	13.4%
その他発着	57,514	4.1%	38,722	4.7%
合計	1,392,340	100.0%	821,678	100.0%

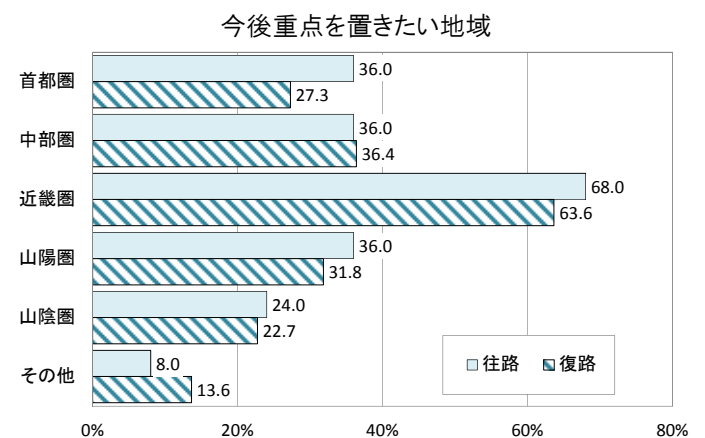


(4) 今後重点を置こうと考えている地域について(複数回答可)

今後重点を置こうと考えている地域は、往路では「近畿圏」が68.0%と最も多く、次いで「首都圏」(36.0%)、「中部圏」(36.0%)、「山陽圏」(36.0%)と多くなっている。

復路でも「近畿圏」が63.6%と最も多く、次いで「中部圏」(36.4%)、「山陽圏」(31.8%)と多くなっている。

	往路		復路	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
首都圏	9	36.0%	6	27.3%
中部圏	9	36.0%	8	36.4%
近畿圏	17	68.0%	14	63.6%
山陽圏	9	36.0%	7	31.8%
山陰圏	6	24.0%	5	22.7%
その他	2	8.0%	3	13.6%
有効回答	25	100.0%	22	100.0%



3 輸送業務、保管業務に関する問題点や課題

(1) 輸送業務、保管業務の満足度について

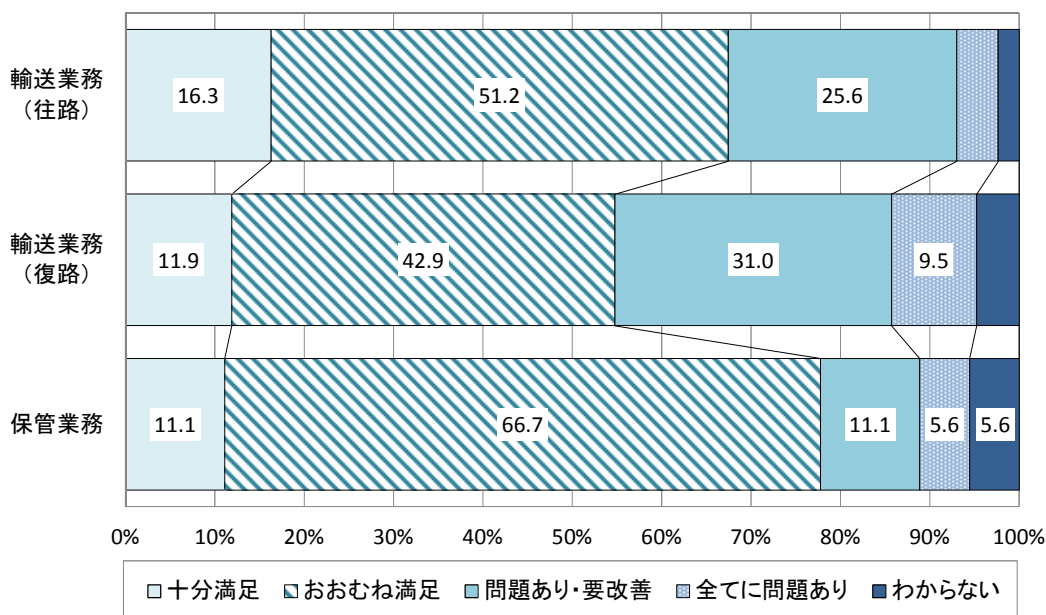
現在の輸送業務、保管業務に関する満足度は、輸送業務（往路）では「十分満足しており改善の必要はない」が16.3%、「おおむね満足しているが、更に改善したい面がある」が51.2%となっており、約70%の事業者がおおむね満足している。

一方、輸送業務（復路）では「すべてに問題があり改善や効率化を進めたい」が9.5%、「問題があり改善や効率化を進めたい面が多くある」が31.0%となっており、約40%の事業者が改善や効率化を進めたいと回答しており、往路と比べると満足度が低くなっている。

保管業務では「十分満足しており改善の必要はない」が11.1%、「おおむね満足しているが、更に改善したい面がある」が66.7%となっており、約80%の事業者がおおむね満足している。

	輸送業務(往路)		輸送業務(復路)		保管業務	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合
十分満足	7	16.3%	5	11.9%	2	11.1%
おおむね満足	22	51.2%	18	42.9%	12	66.7%
問題あり・要改善	11	25.6%	13	31.0%	2	11.1%
全てに問題あり	2	4.7%	4	9.5%	1	5.6%
わからない	1	2.3%	2	4.8%	1	5.6%
有効回答	43	100.0%	42	100.0%	18	100.0%

業務に関する満足度



(2) 輸送業務、保管業務の問題点や課題について(複数回答可)

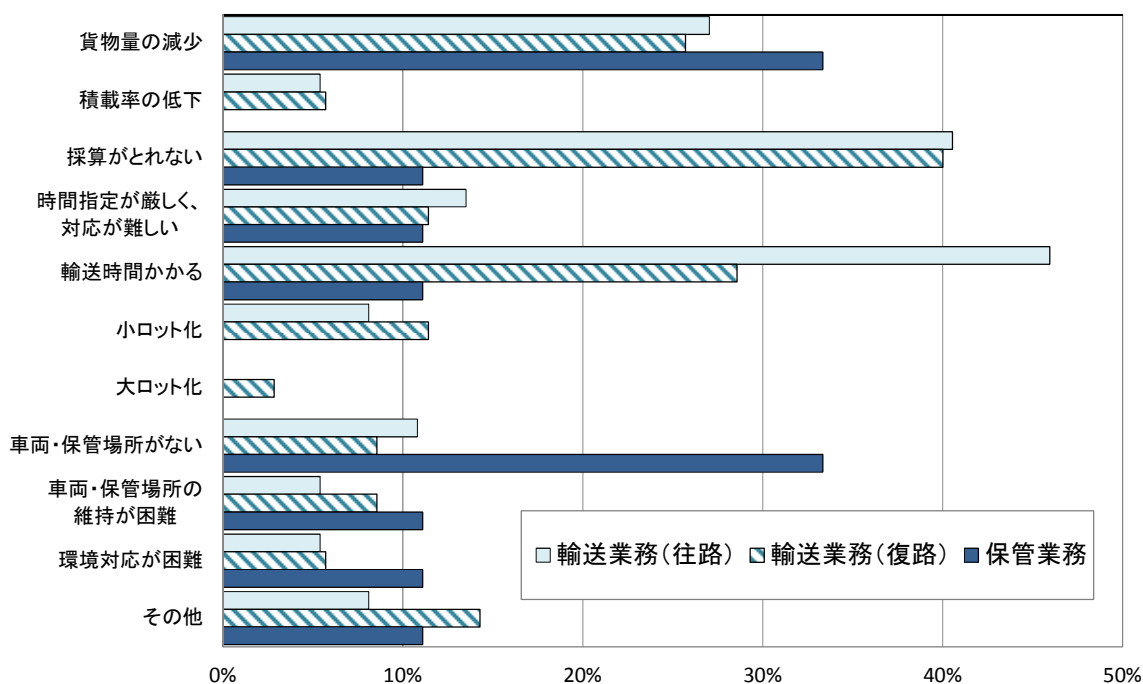
現在の輸送業務、保管業務に関する問題点や課題は、輸送業務(往路)では「実際の輸送時間がかかる」が45.9%と最も多く、次いで「運賃・料金が安く採算がとれない」(40.5%)、「貨物量が減少している」(27.0%)と多くなっている

輸送業務(復路)では、「運賃・料金が安く採算がとれない」が40.0%と最も多く、次いで「実際の輸送時間がかかる」(28.6%)、「貨物量が減少している」(25.7%)と多くなっている。

保管業務では、「貨物量が減少している」「適切な車両や保管場所が確保できない」が33.3%と最も多くなっている。

	輸送業務(往路)		輸送業務(復路)		保管業務	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合
貨物量の減少	10	27.0%	9	25.7%	3	33.3%
積載率の低下	2	5.4%	2	5.7%	0	0.0%
採算がとれない	15	40.5%	14	40.0%	1	11.1%
時間指定が厳しく、対応が難しい	5	13.5%	4	11.4%	1	11.1%
輸送時間かかる	17	45.9%	10	28.6%	1	11.1%
小ロット化	3	8.1%	4	11.4%	0	0.0%
大ロット化	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
車両・保管場所がない	4	10.8%	3	8.6%	3	33.3%
車両・保管場所の維持が困難	2	5.4%	3	8.6%	1	11.1%
環境対応が困難	2	5.4%	2	5.7%	1	11.1%
その他	3	8.1%	5	14.3%	1	11.1%
有効回答	37	100.0%	35	100.0%	9	100.0%

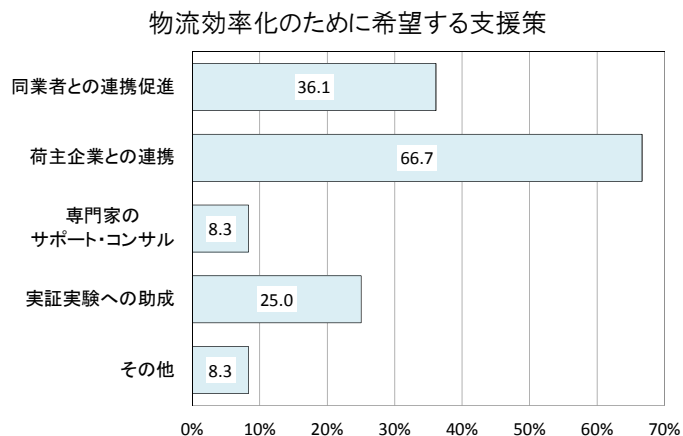
業務に関する問題点や課題



(3) 物流効率化を進めるに当たって、希望する支援策等について(複数回答可)

物流効率化を進めるために希望する支援策等については、「荷主企業との連携を促進するための情報提供の手段の提供」が 66.7%と最も多く、次いで「同業者間との連携を促進するための情報提供の手段の提供」(36.1%)、「実証実験等に対する助成制度」(25.0%)となっている。

	回答数	回答割合
同業者との連携促進	13	36.1%
荷主企業との連携	24	66.7%
専門家のサポート・コンサル	3	8.3%
実証実験への助成	9	25.0%
その他	3	8.3%
有効回答	36	100.0%

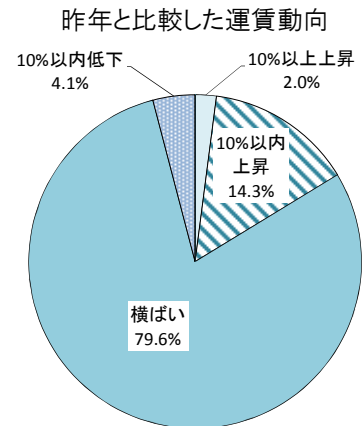


4 運賃動向

(1) 平成 28 年と比較した運賃動向について

平成 28 年と比較した運賃動向については、「横ばい」が 79.6%と最も多く、次いで「10%以内上昇した」(14.3%)、「10%以内低下した」(4.1%)となっており、昨年と比較すると運賃は上昇している。

	回答数	回答割合
10%以上上昇	1	2.0%
10%以内上昇	7	14.3%
横ばい	39	79.6%
10%以内低下	2	4.1%
10%以上低下	0	0.0%
有効回答	49	100.0%

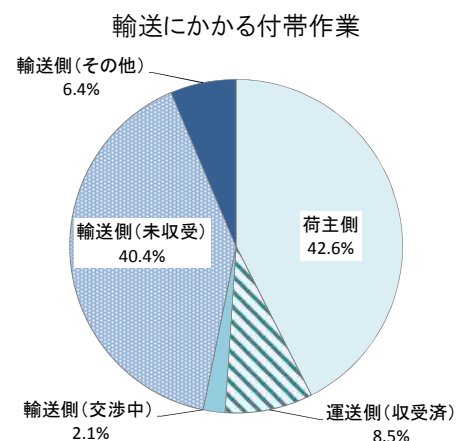


(2) 運送に係る付帯作業とその作業代金の収受について

運送に係る付帯作業に関して、「主に荷主側で荷役作業を行う」が 42.6%、「主に運送事業者で荷役作業を行う」が 57.4%となっている。

また、運送事業者で荷役作業を行う事業者 (57.4%) のうち、「作業代金は収受できていない (交渉できていない)」と回答したのは、40.4%となっている。

	回答数	回答割合
荷主側	20	42.6%
運送側(収受済)	4	8.5%
運送側(交渉中)	1	2.1%
運送側(未収受)	19	40.4%
運送側(その他)	3	6.4%
有効回答	47	100.0%



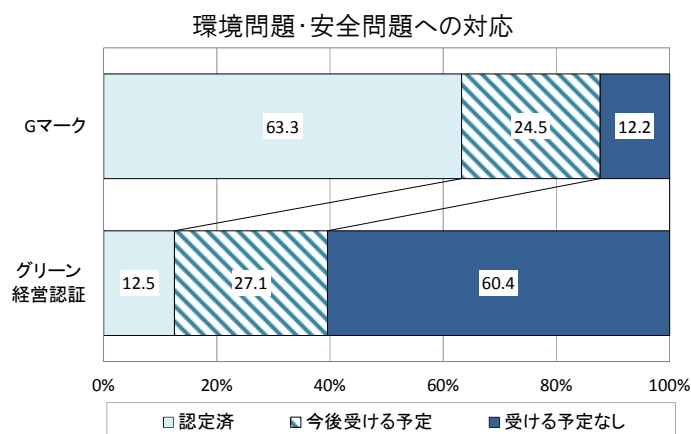
5 環境問題への取組

(1) Gマーク、グリーン経営認証の取得状況について

Gマーク（安全性優良事業所）の取得状況は、「現在、認定を受けている」が63.3%、「現在、認定は受けていないが、今後認定を受ける予定である」が24.5%となっており、約90%の事業者が取得に対して積極的である。

一方、グリーン経営認証の認証状況は、「現在、認定は受けていないし、受けるつもりはない」が60.4%となっており、Gマークと比べて、取得に対して消極的である。

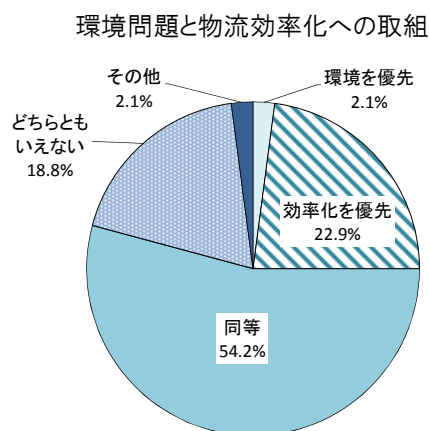
	Gマーク		グリーン経営認証	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
認定済	31	63.3%	6	12.5%
今後受ける予定	12	24.5%	13	27.1%
受ける予定なし	6	12.2%	29	60.4%
有効回答	49	100.0%	48	100.0%



(2) 環境問題と物流効率化への取組の位置づけについて

環境問題と物流効率化への取組の位置づけは、「物流効率化への対応の結果は環境問題にも寄与するので同等と位置づけている」が54.2%と最も多く、次いで「物流効率化への対応のほうが優先順位が高い」(22.9%)、「どちらともいえない」(18.8%)と多くなっている。

	回答数	回答割合
環境を優先	1	2.1%
効率化を優先	11	22.9%
同等	26	54.2%
どちらともいえない	9	18.8%
その他	1	2.1%
有効回答	48	100.0%



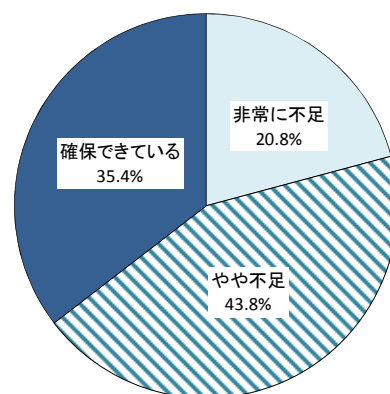
6 ドライバー等の人材確保対策についての取組

(1) ドライバー等の人材確保について

ドライバー等の人材確保状況については、「現在、確保できている」が35.4%となっている。一方、「現在、非常に不足している」が20.8%、「現在、やや不足している」が43.8%と人材不足を感じている事業者が60%を超えている。

	回答数	回答割合
非常に不足	10	20.8%
やや不足	21	43.8%
確保できている	17	35.4%
有効回答	48	100.0%

ドライバー等の人材確保

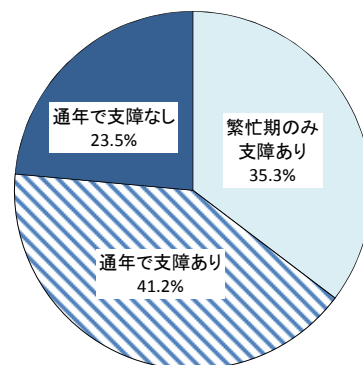


(2) ドライバーの確保ができていない場合の運行業務への支障について

ドライバー等の人材不足による運行業務への支障の有無については、「通年にわたり、日頃の運行業務に支障がでていない」が23.5%となっている。一方、「繁忙期のみ、運行に支障が出ている」が35.3%、「通年にわたり、運行業務に支障が出ている」が41.2%と運行業務への支障が出ている事業者が約80%となっている。

	回答数	回答割合
繁忙期のみ支障あり	12	35.3%
通年で支障あり	14	41.2%
通年で支障なし	8	23.5%
有効回答	34	100.0%

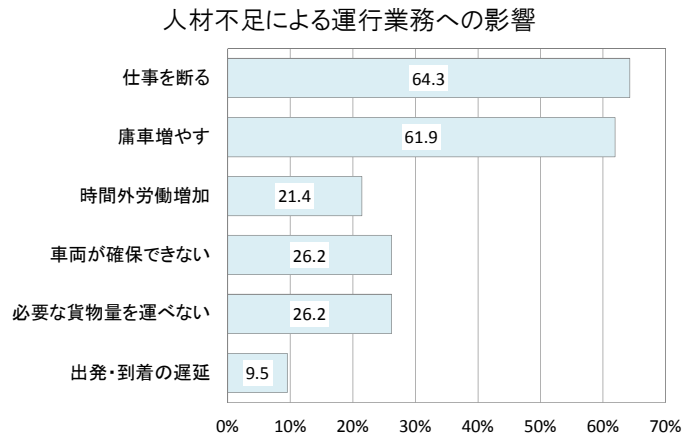
運行業務への支障



(3) 人材不足による業務への影響について(複数回答可)

人材不足による運行業務への影響については、「仕事を断ることがある」が64.3%と最も多く、次いで「庸車の依頼を増やすことがある」(61.9%)と多くなっている。

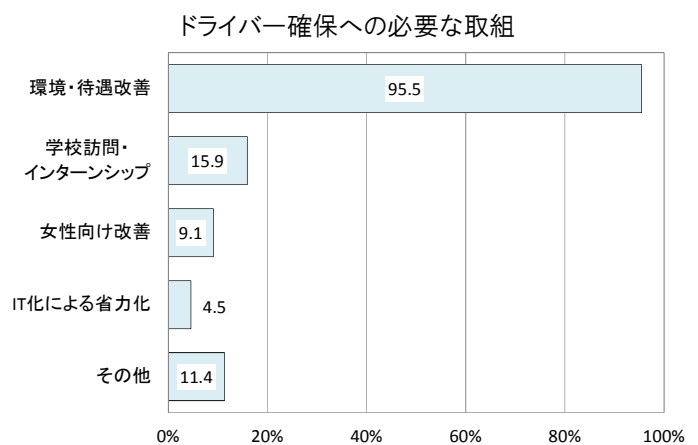
	回答数	回答割合
仕事を断る	27	64.3%
庸車増やす	26	61.9%
時間外労働増加	9	21.4%
車両が確保できない	11	26.2%
必要な貨物量を運べない	11	26.2%
出発・到着の遅延	4	9.5%
有効回答	42	100.0%



(4) ドライバー確保に必要な取組について(複数回答可)

回答事業者が必要とするドライバー確保のための取組は、「賃金や労働時間等労働環境の改善」が95.5%と最も多く、次いで「学校訪問やインターンシップの受入等若年層へのアピール強化」が15.9%と多くなっている。

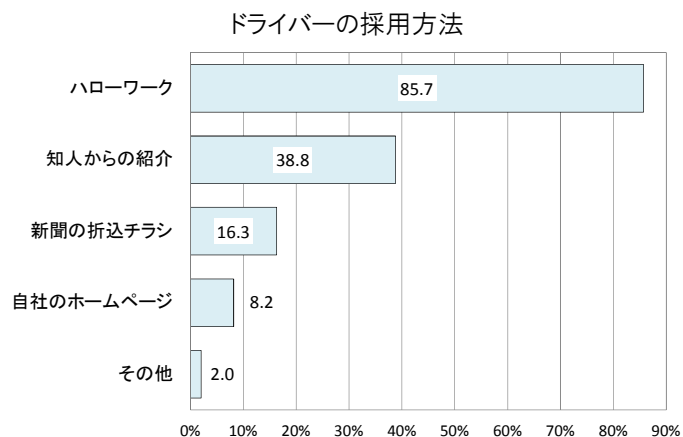
	回答数	回答割合
環境・待遇改善	42	95.5%
学校訪問・インターンシップ	7	15.9%
女性向け改善	4	9.1%
IT化による省力化	2	4.5%
その他	5	11.4%
有効回答	44	100.0%



(5) ドライバーの採用方法について(複数回答可)

ドライバーの採用方法は、「ハローワーク」が85.7%と最も多く、次いで「社員や知人、取引先等による紹介」(38.8%)、「新聞の折込チラシ」(16.3%)と多くなっている。

	回答数	回答割合
ハローワーク	42	85.7%
知人からの紹介	19	38.8%
新聞の折込チラシ	8	16.3%
自社のホームページ	4	8.2%
その他	1	2.0%
有効回答	49	100.0%

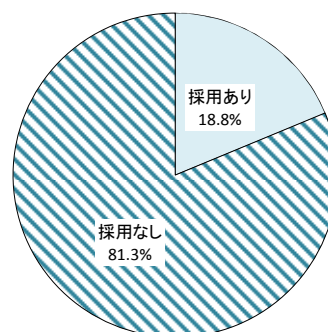


(6) 採用されているドライバーの男女比について

女性ドライバーの採用状況については、「採用あり」が18.8%、「採用なし」が81.3%となっている。また、採用ドライバーの女性割合については、「1割未満」が85.4%と最も多く(「採用なし」も含む)、次いで「1~2割未満」が12.5%となっており、女性の採用は進んでいない。

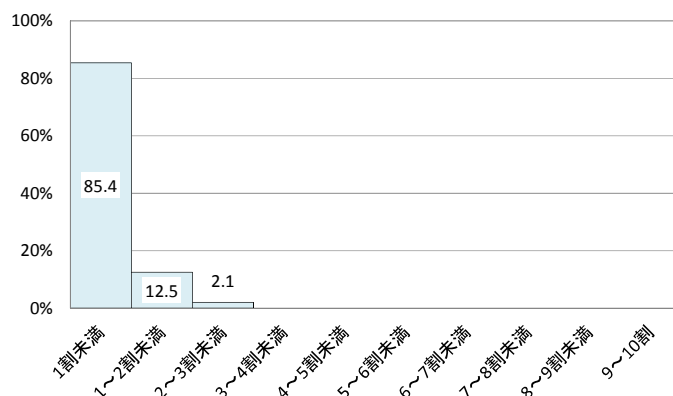
	回答数	回答割合
採用あり	9	18.8%
採用なし	39	81.3%
有効回答	48	100.0%

女性ドライバーの採用状況



	回答数	回答割合
1割未満	41	85.4%
1~2割未満	6	12.5%
2~3割未満	1	2.1%
3~4割未満	0	0.0%
4~5割未満	0	0.0%
5~6割未満	0	0.0%
6~7割未満	0	0.0%
7~8割未満	0	0.0%
8~9割未満	0	0.0%
9~10割	0	0.0%
有効回答	48	100.0%

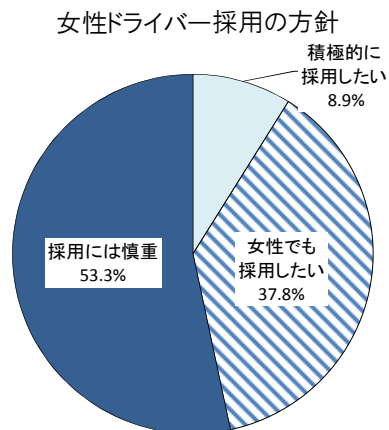
採用ドライバーの女性割合



(7) 女性ドライバーの採用について

女性ドライバーの採用については、「女性ドライバーを積極的に採用したい」が 8.9%、「男性ドライバーが不足しているので、女性でも採用したい」が 37.8%となっている。一方、「女性ドライバーの採用については慎重である」が 53.3%と過半数を上回っている。

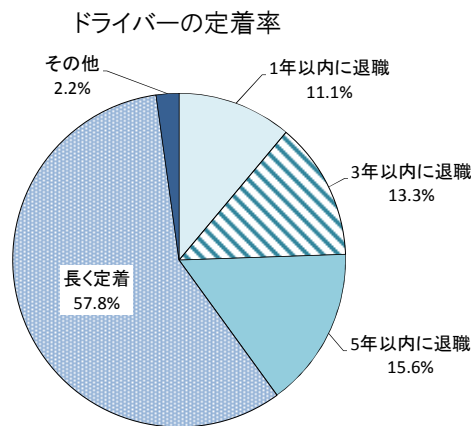
	回答数	回答割合
積極的に採用したい	4	8.9%
女性でも採用したい	17	37.8%
採用には慎重	24	53.3%
有効回答	45	100.0%



(8) ドライバーの定着率について

ドライバーの定着率については、「長く定着するドライバーが多い」が 57.8%となっている。一方、「1年以内に退職するドライバーが多い」が 11.1%、「3年以内に退職するドライバーが多い」が 13.3%、「5年以内に退職するドライバーが多い」が 15.6%と短期で退職するドライバーが多い事業者が 40%を上回っている。

	回答数	回答割合
1年以内に退職	5	11.1%
3年以内に退職	6	13.3%
5年以内に退職	7	15.6%
長く定着	26	57.8%
その他	1	2.2%
有効回答	45	100.0%



7 自由記入欄の傾向

物流効率化を進めていくことに関する問題点や行政等の支援策についての自由記入欄の傾向としては、荷主企業への要望や高速道路の料金に関することが多く見られた。

(1) 荷主企業について

- トラック輸送の専門知識のある人材が荷主企業にも必要ではないかと感じます。荷主企業が現場のドライバーの意見を聞く場を持つことも大切であると思います。
- 荷主は鳥取県で関西の業者さんの荷待時間が長すぎる。荷待をさせた業者が荷待料金を負担する法律にしてほしい。
- 荷主側へ支払い義務の意識付していただく。(運賃とは別立にする)とりあえず、労働時間短縮の足がかりにできるので。
- 荷主企業に対する指導(労働時間の短縮、待ち時間の解消等)

(2) 運賃について

- 最低運賃の取決めを行ってほしい。

(3) 高速道路について

- 高速道路の利用料金に対して割引率を良くしてもらいたい。
- 有料道路の通行料金の割引。
- 営業ナンバー車両に対する、高速道路料金の無料化。
- 大型車両の高速道路料金が無料化になると、ドライバーの作業軽減につながります。

(4) 軽油暫定税率について

- 軽油暫定税率が廃止になれば、高速道路の使用が多くなり、運送の効率化。

(5) 中小企業への助成について

- 大手、全国ネットの企業と比べると、車両、タイヤなど調達価格に差があるため、小企業への助成を厚くしてほしい。

(6) 女性ドライバーの採用について

- 女性の目線で実際企業に出向き、経営者の声を聞いていただきたい。(女性が仕事をすることの難しさ)

(7) パレットの規格について

- パレットの規格がばらばらのため、使い回しができない。まず、規格を統一し、除々に流通ルートを全国規模で作っていくことが望ましい。

県内運送事業者の物流実態アンケート 調査票

【ご回答に当たって】

○ご回答は、集計処理し、この調査の目的以外には使用致しません。また、貴社名、ご回答者名等は回答内容についての必要な照会が発生した場合のためにご記入いただくためのもので、一切公表いたしません。

○ご記入いただいたアンケート調査票は、大変お手数ですが、**平成29年10月27日(金)**までに、同封した返信用封筒に入れご投函をお願いいたします。

○本アンケートのご回答に際して、ご不明点などがありましたらお手数ですが下記宛にお問い合わせ下さい。

鳥取県商工労働部通商物流課 物流政策担当 上野、岸田、池本
電話：0857-26-7660 F A X：0857-26-8117

問1. 貴社の概要についてご記入下さい。

事業者名			
本社所在地	TEL ()	鳥取県外の支店の有無 (番号に○印を)	1. あり 2. なし
ご回答者氏名			
資本金	万円	直近の1年間の売上高	万円
29年3月末現在従事者数※	人	29年3月末現在トラック保有台数	両
自社保有の倉庫面積	m ²	保有されているフォークリフトの台数	台

※有給役員・常雇・臨時・日雇を含みます。

問2. 貴社の輸送の状況についてご記入下さい。

(1) 最近1年間(平成28年4月～平成29年3月までの1年間)の一般輸送(特積みを除く)の「年間輸送量」を「往路・復路別」にご記入下さい。またその年間輸送量のうち「定期的な輸送」と「スポット輸送」のおおよその比率(%)をご記入下さい。ご記入に当たっては、比率(%)の合計が100%になるようにご注意下さい。

	一般貨物の年間輸送量		定期的な輸送	スポット輸送	合計
往路	トン	⇒	%	%	100%
復路	トン		%	%	100%

(2) (1)の年間輸送量を100とした場合の「主な品目の輸送量」のおおよその比率(%)をご記入下さい。ご記入に当たっては、比率(%)の合計が100%になるようにご注意下さい。下記の区分に従ってそれぞれの割合をご記入下さい。

	年間取引量	農水産品	林産品	鉱産品	金属・機械	化学工業品	軽工業品	雑工業品	特産品	その他
往路	100%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
復路	100%	%	%	%	%	%	%	%	%	%

(3) (1)の年間輸送量のうち「定期的な輸送」を100とした場合の「方面別の輸送量」のおおよその比率(%)をご記入下さい。ご記入に当たっては、比率(%)の合計が100%になるようにご注意下さい。下記の区分に従ってそれぞれの割合をご記入下さい。

	定期的な輸送の年間輸送量	首都圏発着	中部圏発着	近畿圏発着	山陽圏発着	県内及び島根(山陰)の発着	左記の圏域以外の発着
往路	100%	%	%	%	%	%	%
復路	100%	%	%	%	%	%	%

※首都圏・中部圏・近畿圏・山陽圏発着の定期的な輸送が「ある」場合、全ての設問にご回答下さい。

また、これに該当する輸送が「ない」場合は、下の(4)、2ページの(5)(6)及び4ページの間5以降の設問にご回答下さい。(3ページの間3、4ページの間4を除く)

(4) 方面別の輸送において、今後重点を置こうとお考えの地域があれば、該当する地域の欄に○印をつけて下さい。また重点を置きたい具体的な都道府県名や市町村名がある場合は、それをご記入下さい。

	往路		復路	
	該当の場合○印を	具体的な都道府県名・市町村名	該当の場合○印を	具体的な都道府県名・市町村名
首都圏				
中部圏				
近畿圏				
山陽圏				
県内及び島根(山陰)				
上記の圏域以外				

問3. 首都圏・中部圏・近畿圏・山陽圏発着の定期的な取引がある場合、「現在、問題があり改善や効率化を進めたい」と考えている取引はありますか。ある場合にはその代表的な取引の内容を5つのケースまでご回答下さい。

	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	ケース5
①使用車両は？	トシ車	トシ車	トシ車	トシ車	トシ車
②その取引の発着地は？	発地 都府県	都府県	都府県	都府県	都府県
	着地 都府県	都府県	都府県	都府県	都府県
③1回当たりの輸送のトン数は？	ト	ト	ト	ト	ト
④輸送の頻度は？	回/月	回/月	回/月	回/月	回/月
⑤輸送の年間の繁忙期、閑散期は？	最も取引が多い月 月	月	月	月	月
	最も取引が少ない月 月	月	月	月	月
⑥1回当たりの配送先の件数は？	件	件	件	件	件
⑦品目は？（具体的にご記入下さい）					
⑧温度帯は？ （右の中から番号を）	1. 常温 2. 定温 3. チルド 4. 冷凍 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
⑨時間指定の有無は？ （右の中から番号を）	1. 全配送先で分単位の指定 2. 一部配送先で分単位の指定 3. 全配送先で時間単位の指定 4. 一部配送先で時間単位の指定 5. その他（具体的に） 1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()
⑩鳥取からの発貨物の場合、帰りの輸送品の有無は？（右の中から番号を）	1. 自社で手配した帰りの輸送もあり 2. 荷主が手配した帰りの輸送もあり 3. 帰りの輸送はなし 1・2・3	1・2・3	1・2・3	1・2・3	1・2・3
⑪この輸送の運賃は？ （右の中から番号を）	1. 適正である 2. 赤字である 1・2	1・2	1・2	1・2	1・2
⑫この輸送で、既に混載や共同輸送等の効率化策を行ってきまされたか？（右の中から番号を）	1. 既に自社内で混載を実施 2. 既に他社との共同化を実施 3. 混載・共同化以外の効率化策を実施 4. その他（具体的に） 5. 特に何も行っていない 1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()
⑬この「問題があり効率化を進めたい」輸送について、今後、具体的な見直しについての検討状況は？（右の中から番号を）	1. 既に効率化策を検討中 2. 今後、効率化策を検討予定 3. 検討しているが具体的な方策がない 4. 検討したいが検討方法がわからない 5. その他（具体的に） 6. 特に何も行っていない 1・2・3・4・5・6 ()	1・2・3・4・5・6 ()	1・2・3・4・5・6 ()	1・2・3・4・5・6 ()	1・2・3・4・5・6 ()
⑭効率化策の具体的な内容は？（右の中から番号を）	1. 混載輸送 2. 共同輸送 3. 帰り荷の安定的な確保 4. 物流拠点の集約化 5. 荷主企業との取引条件の見直し 6. わからない 7. その他（具体的に） 1・2・3・4 5・6・7 ()	1・2・3・4 5・6・7 ()	1・2・3・4 5・6・7 ()	1・2・3・4 5・6・7 ()	1・2・3・4 5・6・7 ()
⑮今後の見直しの具体的な目標時期は？（右の中から番号を）	1. 今年度（29年度）中 2. 来年度（30年度）中 3. 再来年度（31年度）以降 4. 未定 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
⑯見直し上での課題や阻害要因は？（右の中から番号を）	1. 自社内での取り組みでは限界がある 2. 同業他社との協力関係の構築が難しい 3. 荷主企業の協力を得ることが難しい 4. 具体的な検討方法がわからない 5. その他（具体的に） 1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()	1・2・3・4・5 ()

問4. (1) 現在、貴社が担当している輸送業務に関する満足度について、どのようにお考えですか。往路と復路それぞれについて、該当する番号1つに○印をつけて下さい。

	輸送業務		保管業務
	往路	復路	
十分満足しており改善の必要はない	1	1	1
おおむね満足しているが、更に改善したい面がある	2	2	2
問題があり改善や効率化を進めたい面が多くある	3	3	3
全てに問題があり改善や効率化を進めたい	4	4	4
なんともいえない、わからない	5	5	5

(2) 現在の貴社が担当している輸送業務、保管業務に関して、どのような問題点や課題がありますか。仕入れと販売それぞれについて、該当する番号全てに○印をつけて下さい。

	輸送業務		保管業務
	往路	復路	
貨物量が減少している	1	1	1
積載率が低下している	2	2	2
運賃・料金が安く採算がとれない	3	3	3
時間指定が厳しく対応が難しい	4	4	4
実際の輸送時間がかかる	5	5	5
発注の単位が小さく（小ロット化）なっている	6	6	6
発注の単位が大きく（大ロット化）なっている	7	7	7
適切な車両や保管場所が確保できない	8	8	8
適切な車両や保管量を維持・コントロールできない	9	9	9
CO2発生量の削減など環境問題への対応が難しい	10	10	10
その他（具体的に)	11	11	11

問5. 物流の効率化を進めるに当たって、希望する支援策等がありますか。該当する番号全てに○印をつけて下さい。

1. 同業者間との連携を促進するための情報提供の手段の提供
2. 荷主企業との連携を促進するための情報提供の手段の提供
3. 専門家によるサポート機能、コンサルタント機能の提供
4. 実証実験等に対する助成制度
5. その他（具体的に

問6. 昨年と比較した場合の運賃動向について。該当する番号1つに○印をつけて下さい。

1. 10%以上上昇した。
2. 10%以内上昇した。
3. 横ばい
4. 10%以内低下した。
5. 10%以上低下した。

問7. 運送にかかる付帯作業について、該当する番号1つに○印をつけて下さい。

(2を選択した場合は次の問についても回答ください)

1. 主に荷主側で荷役作業を行う
2. 主に運送事業者で荷役作業を行う

問8. 荷役作業など付帯作業の代金について該当する番号1つに○印をつけて下さい。

1. 作業代金を収受できている
2. 作業代金の収受について交渉を行っている
3. 作業代金は収受できていない（交渉できていない）
4. その他（具体的に

問9. 貴社では環境問題・安全問題への対応として、どのような取り組みを行っていますか。

(1) 低公害車の導入状況について

1. 最近1年間に導入したCNG車の台数をご記入下さい。

_____トン車 _____台 _____トン車 _____台 _____トン車 _____台

2. 最近1年間に導入したハイブリッド車の台数をご記入下さい。

_____トン車 _____台 _____トン車 _____台 _____トン車 _____台

(2) Gマーク（安全性優良事業所）の取得状況について、該当する番号1つに○印をつけて下さい。

1. 現在、認定を受けている
2. 現在、認定を受けていないが、今後認定を受ける予定である
3. 現在、認定は受けていないし、受けるつもりはない

(3) グリーン経営認証（交通エコロジー・モビリティ財団による）の取得状況について、該当する番号1つに○印をつけて下さい。

1. 現在、認定を受けている
2. 現在、認定を受けていないが、今後認定を受ける予定である
3. 現在、認定は受けていないし、受けるつもりはない

問10. 貴社では環境問題と物流効率化への取り組みをどのように位置づけていますか。該当する番号1つに○印をつけて下さい。

1. 環境問題への対応のほうが優先順位が高い
2. 物流効率化への対応のほうが優先順位が高い
3. 物流効率化への対応の結果は環境問題にも寄与するので同等と位置づけている
4. どちらともいえない
5. その他（具体的に)

問1 1. 【ドライバー等の人材確保対策についての取組み】

(1) ドライバー等の人材確保について、該当する番号全てに○印をつけて下さい。

1. 現在、非常に不足している。
2. 現在、やや不足している。
3. 現在、確保できている。

(2) ドライバーの確保ができていない場合の運行業務への支障について、該当する番号全てに○印をつけて下さい。

1. 繁忙期のみ、運行に支障が出ている。
2. 通年に亘り、運行業務に支障が出ている。
3. 通年に亘り、日ごろの運行業務に支障が出ていない。

(3) 人材不足により運行業務への影響について、該当する番号全てに○印をつけて下さい。

1. 仕事を断ることがある。
2. 庸車の依頼を増やすことがある
3. ドライバーの時間外労働時間を増加させることがある。
4. 必要な車両数を確保できないことがある。
5. 必要な貨物量を輸送できないことがある。
6. 出発時間、到着時間が遅延することがある。
7. その他

(4) ドライバーの確保への必要な取組みについて、該当する番号全てに○印をつけて下さい。

1. 賃金や労働時間等労働環境の改善
2. 学校訪問やインターンシップの受入等若年層へのアピール強化
3. 女性が働きやすい環境づくり
4. IT化の促進による省力化
5. その他（具体的に：)

(5) ドライバーの採用方法について、該当する番号1つに○印をつけて下さい。

1. ハローワーク
2. 社員や知人、取引先等による紹介
3. 新聞の折込チラシ
4. 自社のホームページ
5. その他（具体的に：)

(6) 現在採用されているドライバーの男女比について割合（全体を10として）をお答え下さい。

男性 : 女性 (例 男性 8 : 2 女性)

(7) 女性ドライバーの採用について、該当する番号1つに○印をつけて下さい。

1. 女性ドライバーを積極的に採用したい
2. 男性ドライバーが不足しているので、女性でも採用したい。
3. 女性ドライバーの採用については慎重である

(理由)

(8) ドライバーの定着率について、該当する番号1つに○印をつけて下さい。

1. 1年以内に退職するドライバーが多い
2. 3年以内に退職するドライバーが多い
3. 5年以内に退職するドライバーが多い
4. 長く定着するドライバーが多い
5. その他（具体的に：)

問1 2. 物流の効率化を進めていくことに関する問題点や行政等の支援策について、どのようなご意見でも結構ですのご自由にご記入下さい、

◇ご協力ありがとうございました◇